

横浜市インフルエンザ流行情報 11号

横浜市健康福祉局健康安全課 / 横浜市衛生研究所

《トピックス》

流行注意報が発令されています。

【概況】

2019年第50週(12月9日～15日)の定点^{※1}あたりの患者報告数は、横浜市全体で **20.49** となり、流行注意報が発令された前週より増加しています。

年齢別では、10歳未満の報告が全体の55.5%、15歳未満の報告が全体の76.0%を占めています。学級閉鎖等は、第50週にて小学校を中心に69件、患者数1,529人が報告され、前週より増加しています。

また、昨シーズンと比べて、**入院例や重症例の報告が多くなっています。**

今シーズンの第50週までの市内の迅速診断キットの結果は、累計で **A型 98.6%**、**B型 1.3%**、A・B型ともに陽性0.1%と、A型が多く検出されています。なお、全国のウイルス分離・検出状況^{※3}では、AH1pdmが多く検出されており、横浜市での検出状況も同様の状況です。

また、保育園・幼稚園や高齢者施設等での集団発生も報告されています。各施設での持ち込み防止や感染拡大防止対策を徹底しましょう。

今後、インフルエンザの本格的な流行が予想されるため、正しい手洗い^{※4}、予防接種等による予防や、早期受診などの対策^{※5}が重要です。

※1 定点とは、定期的にインフルエンザ患者発生状況を報告していただいている医療機関(市内153か所)のことで、そこから報告された患者数の平均値が定点あたりの患者報告数です。

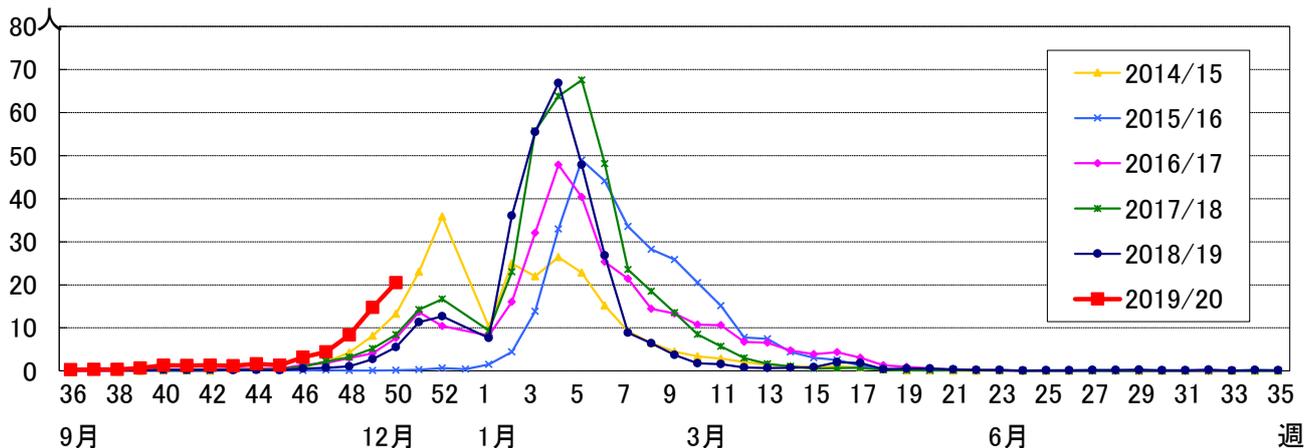
※2 追加報告があったため、以前お知らせした情報から報告数が更新されています。

※3 [インフルエンザウイルス分離・検出速報\(国立感染症研究所\)](#)

※4 [横浜市保健所ホームページ](#)(「正しい手洗い方法」および、掲示用ポスター「石けんで『手』を洗おう」をトップページに掲載しておりますので、是非ご活用ください)

※5 [市民向けインフルエンザ予防チラシ\(横浜市\)](#)

1 市内流行状況:市全体の定点あたりの患者報告数は、第40週で1.32となり、流行開始の目安である1.00を上回りました。その後、第49週にて14.73^{※2}となり、流行注意報の発令基準(10.00)を超えました。第50週は20.49となり、前週より増加しています。



2 地図で表した直近3週間の区別流行状況(塗り分けの数字は定点あたり報告数)

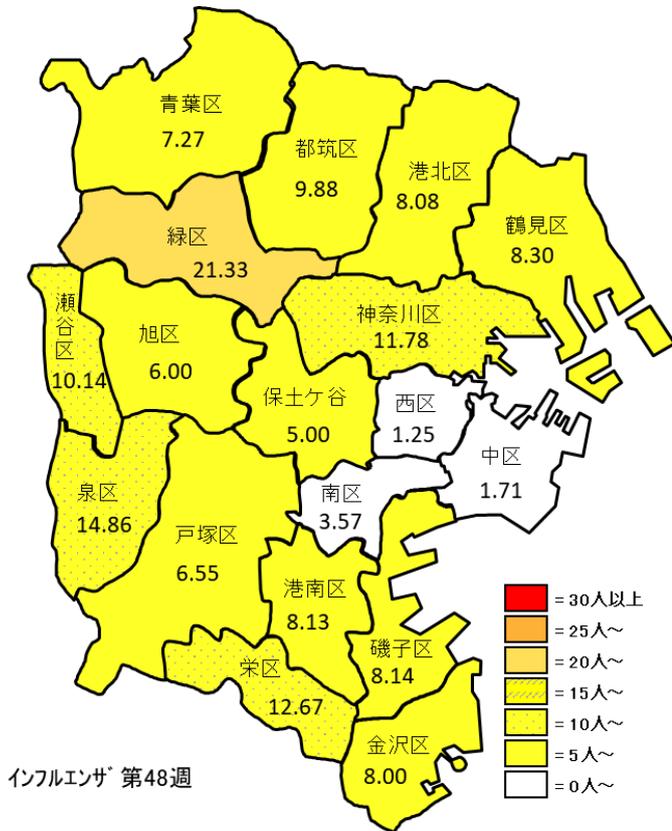
《市全体》

第48週 8.38

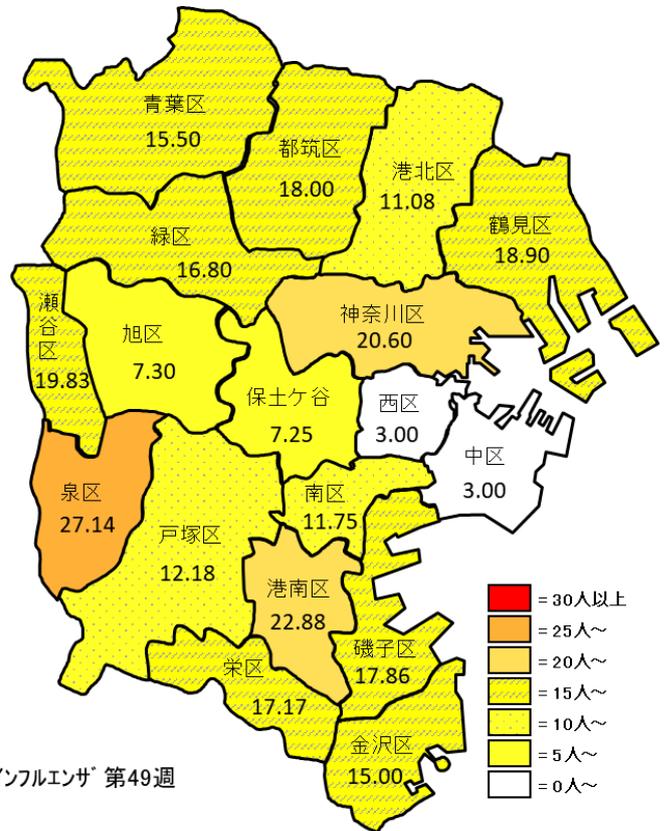
【流行注意報発令】

《市全体》

第49週 14.73^{※2}



インフルエンザ 第48週



インフルエンザ 第49週

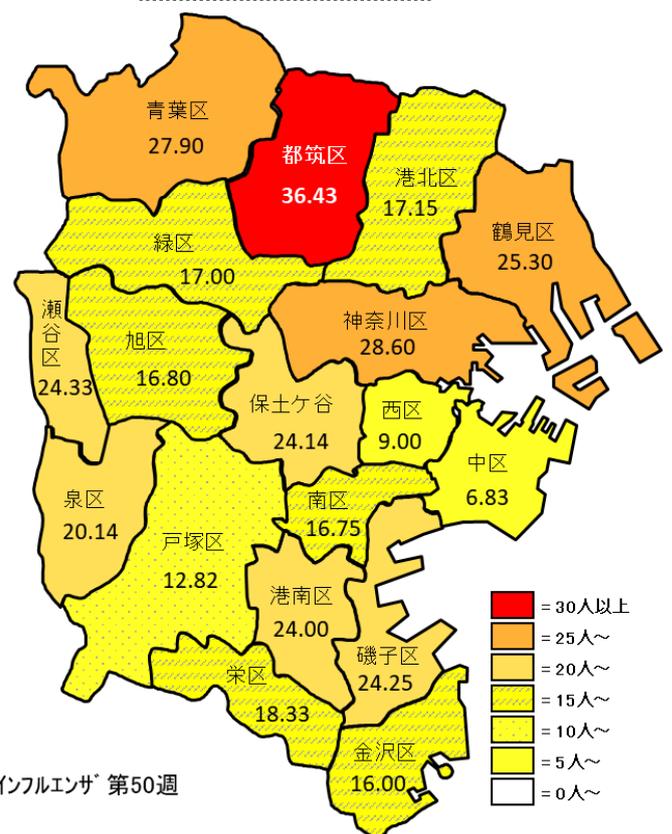
《市全体》

第50週 20.49

《参考》

昨シーズン(2018/19年)の流行推移

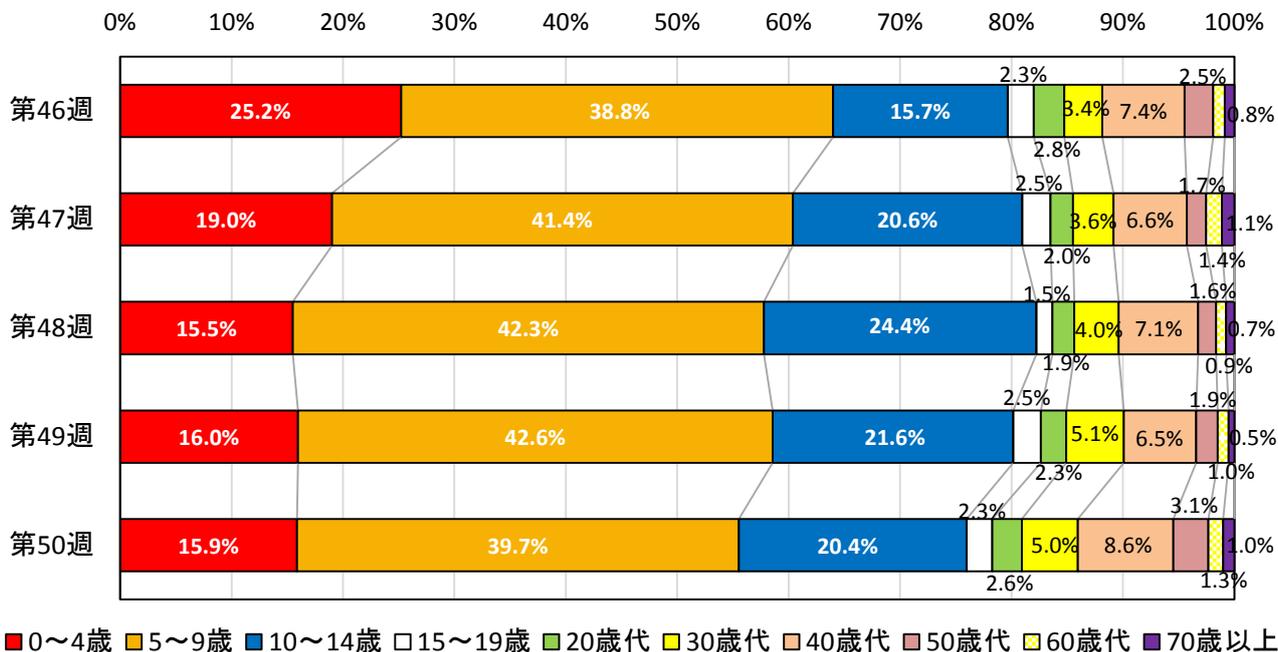
- ・流行の開始【定点あたり1.00超】
第48週(11月26日~12月2日)
- ・流行注意報発令【定点あたり10.00超】
第51週(12月17日~23日)
- ・流行警報発令【定点あたり30.00超】
第2週(1月7日~13日)
- ・流行警報解除【定点あたり10.00未満】
第7週(2月11日~17日)



インフルエンザ 第50週

3 年齢層別集計:第 50 週の患者年齢構成は、10 歳未満が 55.5%、10 歳から 15 歳未満が 20.4%となっており、15 歳未満が全体の 76.0%を占めています。

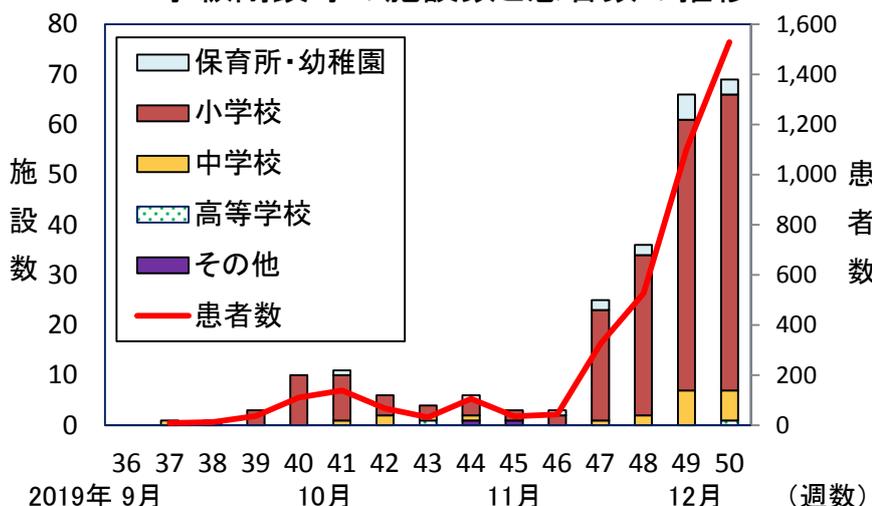
年齢層別患者割合



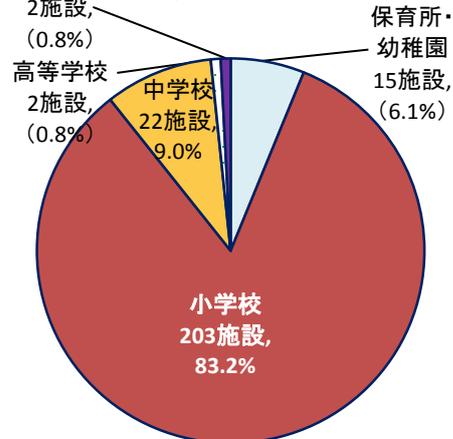
4 市内学級閉鎖等状況:第 50 週は 69 件の報告(保育所・幼稚園 3 件、小学校 59 件、中学校 6 件、高等学校 1 件)があり、報告された患者数は 1,529 人でした。

今シーズンの累計では、第 50 週までに 244 件の報告があり、報告された患者数は延べ 4,079 人となっています。報告された施設の割合は、保育所・幼稚園 6.1%、小学校 83.2%、中学校 9.0%、高等学校 0.8%、その他 0.8%となっています。

学級閉鎖等の施設数と患者数の推移



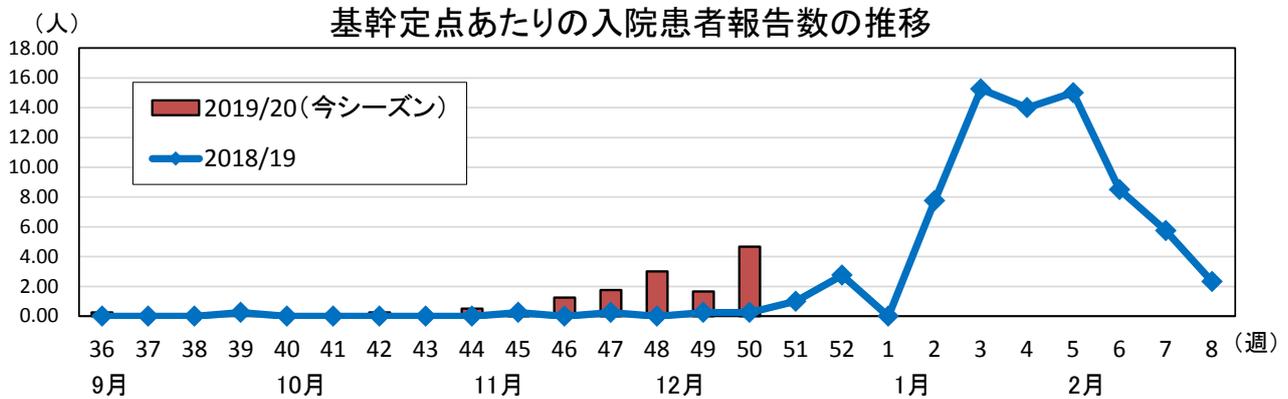
学級閉鎖等の施設の状況 (今シーズン)



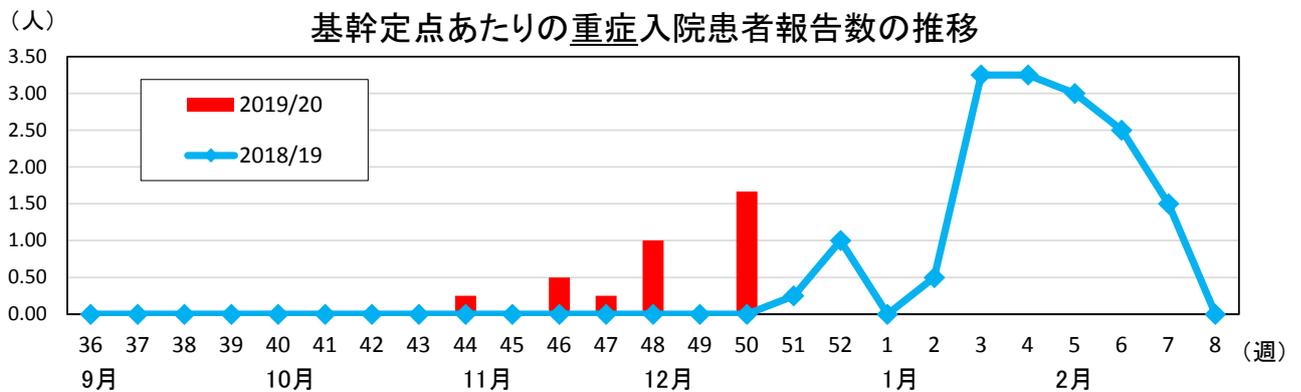
今シーズンの学級閉鎖が報告された 18 区 18 施設(各区 1 施設)のウイルス検査結果では、17 施設から AH1pdm、1 施設から AH3 が分離・検出されています。

5 入院サーベイランス:市内基幹定点医療機関^{※6}におけるインフルエンザ入院患者は、第50週に14人が報告され、今シーズンは現在までに累計45人(10歳未満26人、10歳代3人、20歳代2人、30歳代1人、40歳代1人、50歳代1人、60歳代3人、70歳代5人、80歳以上3人)が報告されています。昨シーズンの同時期と比較して、報告数が多い状態となっています。

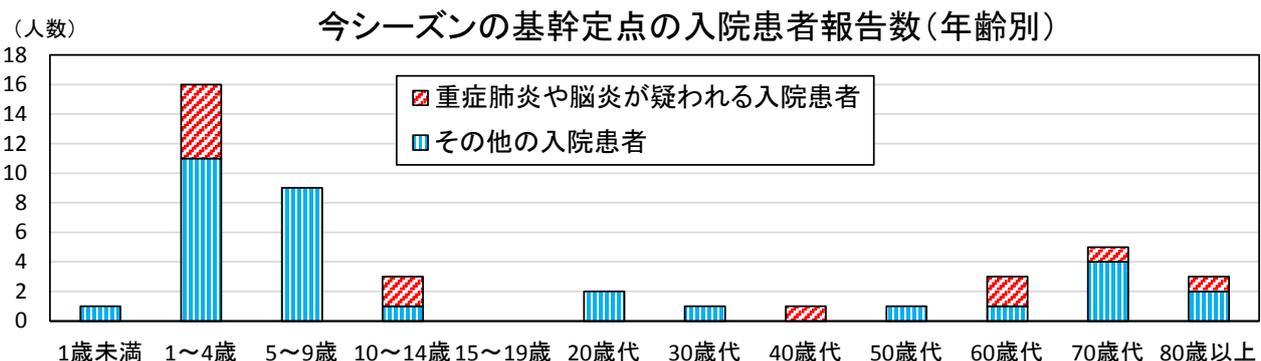
※6 基幹定点:患者を300人以上収容する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)の中から、地域ごとに指定された医療機関のことで、市内には4つの基幹定点があります。



入院時の診療内容が把握されている事例で、ICU入室、人工呼吸器の使用、頭部CT検査、脳波検査等が実施された重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者は、第50週は5人の報告がありました。重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者が、今シーズンは現在までに累計12人が報告されており、今シーズンは昨シーズンの同時期と比較して、報告数が多い状態となっています。

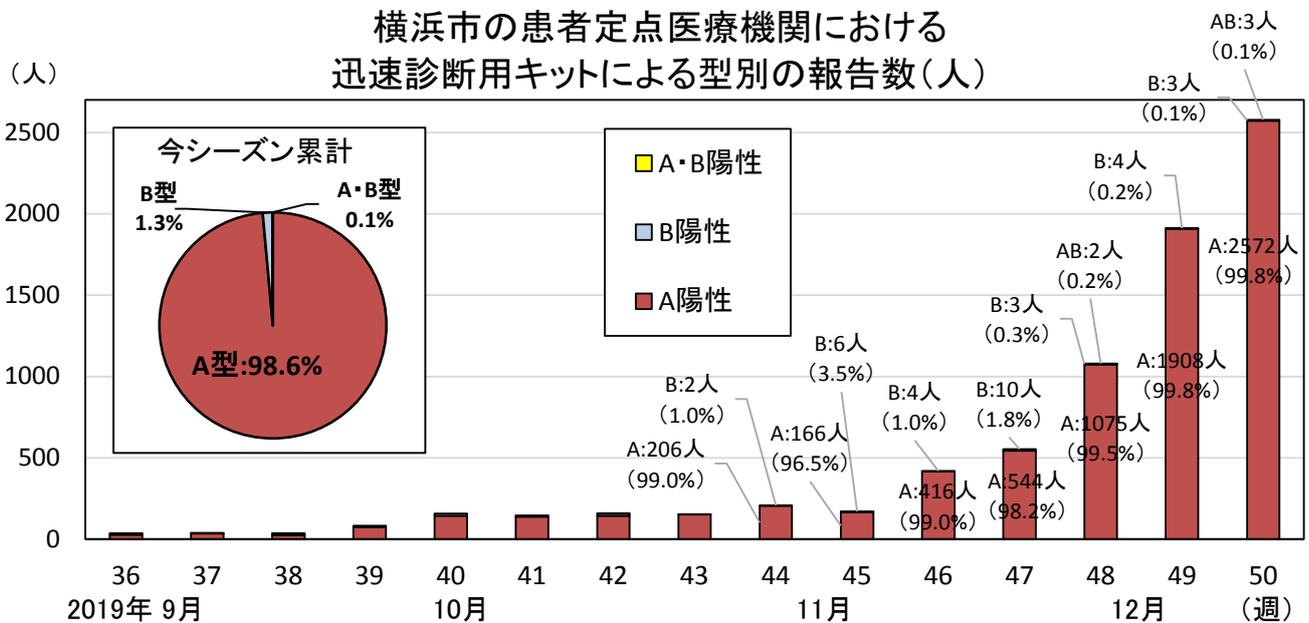


重症肺炎や脳炎が疑われる入院患者の年齢の分布は、5歳未満5人、10歳以上15歳未満2人、40歳代1人、60歳代2人、70歳代1人、80歳以上1人となっており、小児と高齢者で多く報告されています。



6 インフルエンザ脳症:市内における急性脳炎の発生届のうち、病原体がインフルエンザと疑われる報告が、前号から12月18日まではありませんでした。今シーズンの市内の報告は5人(10歳未満4人、10歳代1人)となっています。

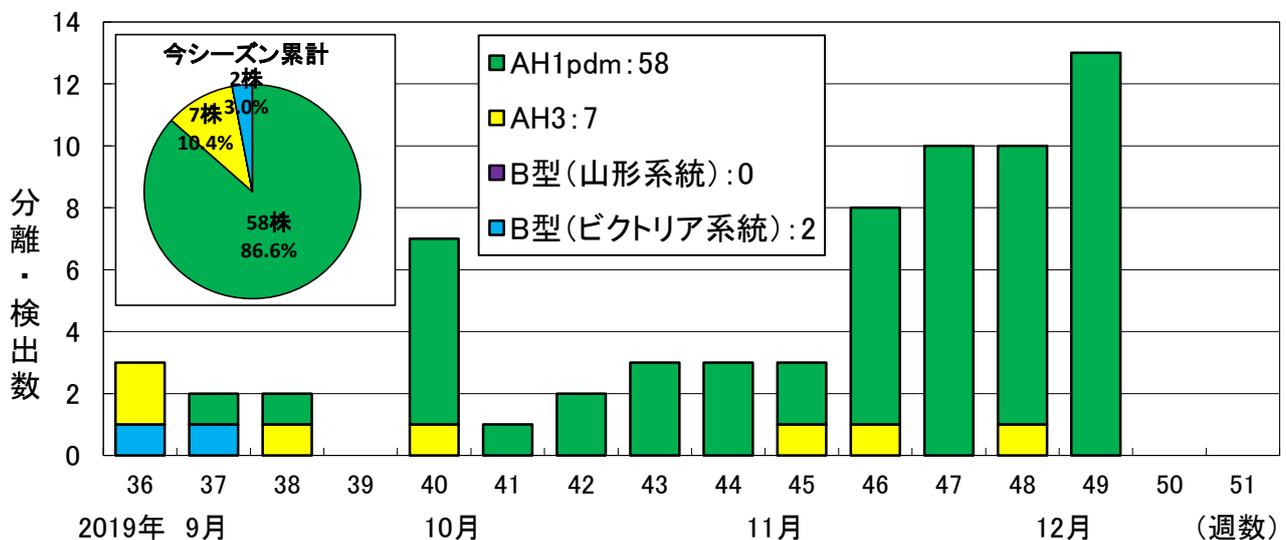
7 迅速キット結果:第50週の迅速キットの結果は、A型99.8%、B型0.1%、A・B型ともに陽性0.1%で、A型がほとんどを占めています。今シーズン累計では、A型98.6%、B型1.3%、A・B型ともに陽性0.1%となっています。



8 市内病原体検出状況:市内では病原体定点^{※7}からAH1pdm(58株)、AH3(7株)、B型(ビクトリア系統)(2株)が分離・検出されており、全国の分離・検出と同様の傾向と考えられます^{※3}。

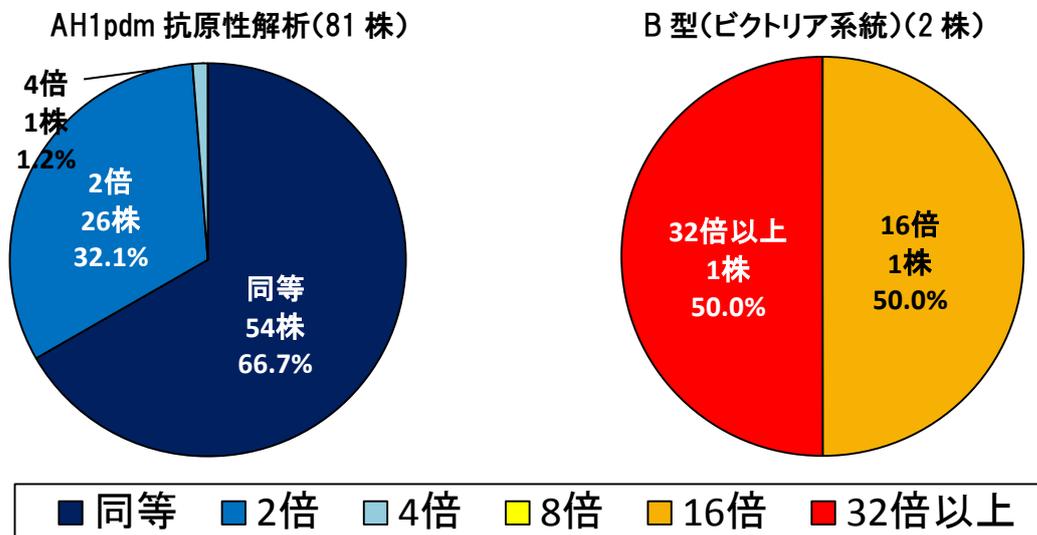
※7 病原体定点:採取した検体を衛生研究所に送付する医療機関で、市内に17か所あります。うち、インフルエンザについては12か所にて採取されています。

市内病原体定点からのインフルエンザウイルス分離・検出状況
(2019年12月18日現在)

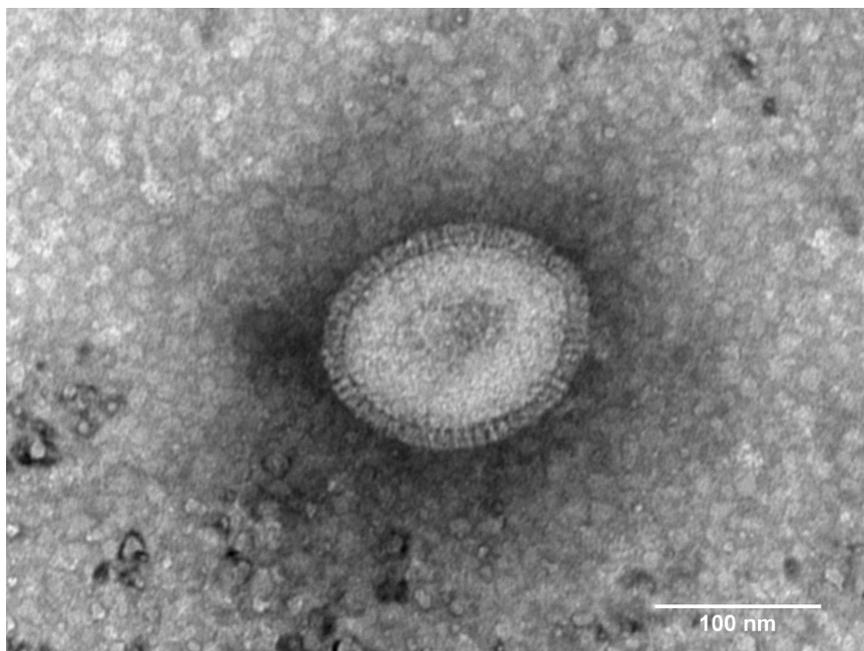


9 分離株の抗原性解析:市内で分離された株(細胞培養した 83 株、12 月 18 日現在)のワクチン株との抗原性解析(HI 試験)を実施しました。ワクチン類似とされているのは 4 倍以内です。あくまでもウサギの血清を使っているため参考値ですが、現在のところ、AH1pdm(81 株)はすべて 4 倍以内、B 型(ビクトリア系統)(2 株)は 16 倍および 32 倍以上となっています。

(参考値)市内で分離された株の抗原性解析(ウサギ免疫血清)



インフルエンザウイルスの電子顕微鏡写真(6 万倍)



撮影:
横浜市衛生研究所

【参考リンク】 近隣自治体の流行状況 ○[神奈川県](#) ○[川崎市](#) ○[東京都](#)
全国の流行状況 ○[国立感染症研究所](#)

【お問い合わせ先】 横浜市衛生研究所感染症・疫学情報課 TEL 045 (370) 9237
横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 045 (671) 2445